

プロジェクト課題No.3

持続的な地域営農の実現に 向けた担い手の経営安定

対象：田表機械利用組合
(組合員11人，オペレーター3人)

計画期間：令和3年度～令和4年度

チーム員：◎熊谷，降幡，高橋，櫻田，安達

§ 背景①

◆田表機械利用組合

東日本大震災の被災農地を対象にほ場整備が行われ，平成26年に組合が設立された。

現在，組合員は10名。

栽培品目は，水稻(主食用・飼料用)。

雇用されたオペレーター3人が，主に栽培管理を担っている。組合員は高齢化が進んでおり，経営継承を視野に入れた組合の将来ビジョン策定による計画的かつ安定した組織運営の実践が求められている。



§ 背景②

◆オペレーター

オペレーター3名の内1名は、新規就農して5年目、自身の農業経営と組合のオペレーター作業を行い、将来の担い手として期待されている。

他の2名は漁業等との兼業であり、補助的な役割となっている。

専業で行っているメインオペレーターも担い手としての意識を持っていることから、個人の営農を含めた経営確立をとおり、地域の担い手としての定着することが求められている。

§ 背景③

◆野生鳥獣対策

田表地区では、野生動物による農作物被害が近年拡大している。

令和3年度に、町の支援を受け、電気柵を設置し、地域住民とも連携し、集落全体で対策に取り組んでいる。



§ねらい

◆田表機械利用組合

→将来ビジョンが作成され，経営継承・営農継続に向けた計画的な組織運営が行われる。

◆メインオペレーター

→生産技術や経営管理技術が向上し，担い手組織の後継者として定着する。

◆野生鳥獣対策

→地域ぐるみの野生鳥獣被害対策に取り組み，営農が継続される。

§ 田表機械利用組合への支援①

各組合員課題認識はあるが、組合として
明確に整理・共有はされていない。
→課題解決に向けた現状整理

○組合員へアンケートを実施

- 回答率：100%(10戸/10戸)
- 調査方法：聞き取り，郵送
- 実施期間：令和3年2月～5月

○調査項目

現在の営農状況，
将来の見通し，
後継者の有無 など

田表機械利用組合の将来ビジョン作成に向けた事前アンケート

田表機械利用組合の状況を把握するため、アンケートを実施します。回収したアンケートは今後の話し合いに活用できるよう整理します。**3月18日(金)まで**に同封の返信用封筒もしくはファクシミリ(FAX:0226-22-1606)まで回答をお願いいたします。

回答に際して、ご不明な点は宮城県気仙沼農業改良普及センターまでお問い合わせください。

問1 あなたについて教えてください。

- (1) 住所：_____
- (2) 氏名：_____ (3) 年齢：_____
- (4) 連絡先(電話)：_____ (5) 職業：_____

(以下の設問に対して、当てはまる番号に○をお願いします)

問2 組合におけるあなたの営農活動状況を教えてください。

- ① 自身で水稻の管理作業を行っている
- ② 水管理は行っている
- ③ 草刈りは行っている
- ④ 全て組合に任せている

問3 今後10年程度を想定し、組合員としての取組みの見通しを教えてください。

- ① 現状維持
- ② 拡大して継続
- ③ 縮小して継続
- ④ 後継者へ経営委譲
- ⑤ 営農は行わない

問4 農業の後継者について教えてください。

- ① 後継者がいる。
 - ② 後継者がいない。
 - ③ 未定(後継者となってもらえるか分からない場合も含む)
- } 問5へ

【問4で、②または③を選ばれた方に伺います。】

問5 農地を田表機械利用組合や現オペレーターに引き継いでもよいと考えますか。

- ① よい
- ② 他の選択肢をとりたい(差し支えなければ具体的な想定をお教えください)

具体的想定：

§ 田表機械利用組合への支援②

◎ アンケート結果による課題の整理
→ 課題を明文化して共有

ビジョン
による
明確化!

《課題》

後継者がいない
農地の管理が大変
借り手がない

《解決策》

担い手の確保

組合のオペレーター

《解決の道すじ》

組織体制の検討

栽培技術の向上

関係機関との連携

§ 田表機械利用組合への支援③

○水稻栽培技術向上支援

・ 定期的にはほ場を巡回
指導資料を基に栽培管理を指導

・ 栽培管理は適切に行われ、
水稻の生育は概ね順調

R3 : 390kg/10a※

→ R4 : 456kg/10a

※補完工事による移植遅れ

令和4年産
気仙沼・南三陸 稲作情報 第6号 令和4年7月4日発行
宮城県米づくり推進気仙沼地方本部・宮城県気仙沼農業改良普及センター
TEL 0226-25-8069 FAX 0226-22-1606

今後の管理のポイント

- ・ 中干し終了直後は走り水程度とし、徐々に湛水状態に戻しましょう。
- ・ 葉色を維持し収量・品質を確保するため、追肥を行いましょう。
- ・ いもち病の発生に注意し、発生が確認された場合は速やかに防除しましょう。

1 気象の概況

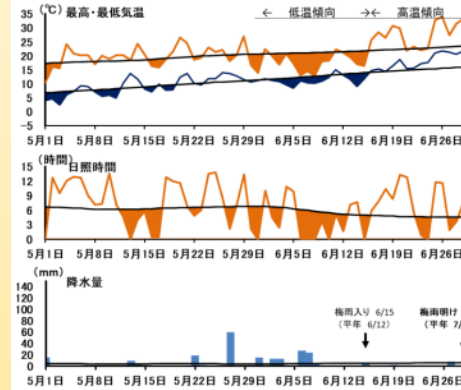


表1 気象経過 (気仙沼アメダス)

	平均気温(°C)		日照時間(h)		降水量(mm)	
	本年値	平年差	本年値	平年比	本年値	平年比
6月 上旬	13.6	-2.7	41.5	64%	76.5	194%
6月 中旬	18.2	0.6	67.7	138%	7.0	13%
6月 下旬	23.1	4.3	60.7	133%	9.0	15%

【6月の気象】

上旬は低温、寡照、多雨で生育は停滞しましたが、中旬から下旬には高温となり、生育は旺盛となっています。

図1 気象経過図 (気仙沼アメダス : 5月1日~6月30日)

2 水稻生育調査ほの生育概況

表2 水稻生育調査結果 (7月1日調査)

品 種		田植日	栽植密度 (株/m ²)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色値 (GM)	
ひとめぼれ 気仙沼市 (本吉町)	本 年	5/11	20.7	47.1	596.2	38.3	
	前年比・差		-1	105%	97%	105%	+3.1
	平年比・差		-4	105%	107%	99%	-1.1
ひとめぼれ 南三陸町 (志津川)	本 年	5/11	19.2	51.1	520.3	37.7	
	前年比・差		-2	105%	93%	110%	-1.1
	平年比・差		-2	107%	101%	105%	-1.7

注) 平年値は平成29年から令和3年までの5か年の平均値 (志津川は平成30年からの4か年平均)。

- ・ 6月上旬の低温により、生育は平年・前年を下回っていましたが、6月中旬以降の高温・多照により、前年・平年並から上回る生育となっています。いずれも幼穂形成始期 (幼穂長 1~2mm) の直前であり、生育はかなり進んでいます。
- ・ 幼穂形成期の茎数の目安は 470~530 本/m² であり、本吉でやや過剰となっていますが、葉色の急激な低下はなく、今後の追肥で生育を調整できる範囲です。

§ 田表機械利用組合への支援④

○アンケート結果を基に，取組方向を検討
将来なっていたい姿（ビジョン）の整理

➡ 運営理念

➡ 戦略

【ビジョン】

田表集落の核となり，
安定して営農を持続できる組合



- ① 新規オペレーターの確保とベテラン組合員が若手をバックアップする体制づくり
- ② 水稻は，全量1等米，平均反収500kg以上を目指す！

§ 田表機械利用組合への支援⑤

そのために

①組合での役割分担を明確化する。

②栽培管理をとおし、
効率的な作業・高品質多収を実現する。

③経営管理をとおし、
安定した所得を確保し経営を継続する。

田表機械利用組合 将来ビジョン（案）

【ビジョン】（10年後になりたい姿）

・田表集落の核となり、安定して営農を持続できる組合

<どのように営農を維持するか>

① 若手が働きやすい環境の整備

⇒新規オペレーターの確保とベテラン組合員が若手をバックアップする体制づくり

② 需要に応じた作付け

⇒JAと連携した品目選定

⇒普及センターと連携した栽培技術の向上による収量・品質の確保

全量1等米，平均反収500kg以上

【理念】

『地域の農業を次世代につなぐ』

<「次世代につなぐ」の意味は？>

1 若手が営農継続できる経営基盤整備

2 農地の管理継続による荒廃防止

3 環境保全をとおした地域貢献

【戦略】

・組合での役割分担を明確化する。

・栽培管理の分析をとおし、効率的な作業・高品質多収を実現する。

・経営管理をとおし、安定した所得を確保し経営を継続する。

ほか、①に対して 若手を交えた定例会の開催、

普及センター等と連携した技術向上

②に対して 品種に応じた土づくり，栽培技術の検討

(2月中旬完成予定)

§ 担い手候補（メインオペレーター）への支援①

○園芸作物栽培技術向上支援

- ぶどう：巡回指導により，整枝，ジベレリン処理，摘粒が効率的に実施されるよう指導
- せり：栽培管理技術の指導，ハウス栽培実施に向けた助言指導
- オクラ：土壌分析結果に基づいた施肥の実施により，前年より生育は改善

その他，トマトやなばなについても助言指導し，栽培管理の改善が図られている。



§ メインオペレーターへの支援②

○経営管理能力向上支援

- パソコン簿記の記帳支援
- 過去の財務諸表から資金の流れ等について解説



自身の経営について理解が深まった



§ 鳥獣対策への支援①

令和4年7月26日に電気柵管理研修会を実施。
令和4年1月に設置した電気柵の管理状況を確認した。

特に、

- 電圧の低下
下草がワイヤーに接触している。
縦線の未設置。
- ワイヤーの設置高
- 側溝がある場所での設置方法
等の改善点が明らかになった。



§ 鳥獣対策支援②

令和4年11月16日に放任果樹対策として、柿の実の除去作業を実施。特に、今回は、本吉響高校の農業専攻の生徒5名も参加し、集落の鳥獣被害の現状や鳥獣対策の基本等について、理解が深まった。



§ 成果

◆田表機械利用組合

→ 組合の課題等が認識され，10年後のなっていたい姿を共有することができ，継承や営農継続に向けた運営ができるよう意思統一が図られた。

◆メインオペレーター

→ ブドウやセリ等の栽培技術や経営管理技術の向上が図られ，担い手組織の後継者として意識が高まった。

◆野生鳥獣対策

→ 鳥獣対策の基本や実践について理解が深まり，営農継続に向けて効果的な被害対策技術を習得できた。

§ 対象からの意見

● 田表機械利用組合長

組合の将来について、組合員がある程度同じ認識を持っていることが分かった。ビジョンについて組合員の合意まで図られたが、これからがスタート! 役員が中心となってビジョン達成に向けて一致団結していくが、具体的に詰め切れなかった部分もあるので、関係機関の今後の支援もお願いしたい。

● 担い手候補 (メインオペレーター)

組合のオペレーター作業や自分の園芸部門もあり、園芸部門の作業が追いついていない。将来、組合のオペレーター確保も必要である。

栽培面で土壌分析をしてもらったり、収支の内容を説明してもらったりしたことは良かった。